

園だより 10 月

令和8年9月30日
台東区立田原幼稚園
TEL3842-6477



天高く 子どもたち育つ 秋

園長 和田 万希子

9月の連休を中心に行われた浅草燈籠祭には、田原幼稚園の子供たちが描いた絵が燈籠として飾られました。浅草神社の境内でたくさんの燈籠に明かりが灯る光景は、とても幻想的で、このような体験ができる田原幼稚園の子供は幸せだなと思いました。

また、つい先日は、田原小学校の校庭で“田原 de 盆踊り”が開催されました。そこでは、なんと櫓の上に園児が乗せていただき、「おつきみ音頭」を披露いたしました。雨が心配されましたが、ちょうど盆踊りが始まるころには小降りになり、たくさんの方に見守られながら、ちょっぴり恥ずかしそうに、でも誇らしげに、盆踊りを楽しむ子供たちでした。

浅草燈籠祭でも田原 de 盆踊りでも、企画・準備等してくださる地域の皆様のおかげで、園児が豊かな体験をすることができ、感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

難しいこと、まだできないことへの挑戦

今ばら組の保育室に行くと「先生、見て！見て！」と口々に声をかけられます。雲梯や鉄棒、大縄跳びなどに取り組んでいるばら組は、“昨日よりできるようになった”が毎日更新されていて、その得意満面の顔と言ったらありません。

先日はちょうど、Aさんが雲梯の端から端まで、初めて成功した瞬間に居合わせました。最後の棒をつかんだ時には、あ、できちゃった、というように一瞬不思議そうな顔をしたAさんでしたが、すぐに「やったー！」と飛び上がって大喜び。周りで見っていた友達や、先生たちとハイタッチを繰り返していました。

自分が頑張っているからこそわかる

「先生見て、見て！」と呼ばれるのは、その子本人のこととは限りません。「〇〇ちゃんが、鉄棒にぴょんって乗れたんだよ」「△△くん、雲梯で新しい技を考えたんだよ、おもしろいよ！」と友達のことまで嬉しそうに報告してくれるのです。この、嬉しそうに、というところ、とっても素敵だと思いますか。

何度も失敗してまた挑戦して、そしてついにできるようになった、その嬉しさを自分が味わっているからこそ、他の友達の頑張りの、できるようになった嬉しさも、まるで自分のことのように感じられるのでしょう。Aさんの雲梯の時も、「やったね」と声を掛けてくれたばら組の子供たちには、「自分も頑張っているからこそ」のつながりが感じられ、とてもうれしく思いました。

今週末は田原小学校の運動会です。幼稚園はその日土曜保育を行います。小学校の運動会は、幼稚園児にとって刺激の宝庫。小学生の立派な行進や高らかな歌声、カッコいい演技を間近に見て、一緒に応援したいと思います。そして、小学生の姿を憧れのモデルとして、「僕たちもお兄さんお姉さんみたいになりたい」と今度は幼稚園の運動会に向かって、さらに張り切っていくことと思います。

幼稚園の運動会「げんき 100 パーセント たわらっこ フェスティバル」は10月17日(土)開催です。体をいっぱいに動かし、自分の力を発揮する園児たちを、ぜひ応援にいらしてください！

